

憧れのウユニ塩湖

2005年3月、アルパインツアーの現社長、芹澤健一氏に誘われて、“地球を遠足”第一回がネパール、アンナプルナ・ダウラギリ展望トレッキングとして、実施された。

それから回を重ねて13年、2018年2月9日出発の「ウユニ塩湖」は、90回目になる“地球を遠足”だ。

ウユニ塩湖は、南米大陸のほぼ中央に位置する内陸国ボリビアが有する、世界中の人が憧れる不思議な絶景である。

9日9時、成田空港集合、11:30発のAA176便は、30分ほど遅れて離陸、日付変更線を越え、約11時間要してダラスに到着。4時間ほど待って12:55発でマイアミに飛ぶ。着16:40、さらに6時間の時間待ちで、22:40発のAA922便は、めざすボリビアの首都ラパスに10日の朝、7時前に着陸した。標高4085m、世界最高所にある国際空港だとか。風邪が抜け切らないまま出てきてしまったので、高山病っぽい。後頭部がドーンと重くて、足元がふらつく。

ラパスはすり鉢状に凹んだ、不思議な地形の街。上の方は空気が薄いので、貧困層が生活する。底の方は標高3300m、空気が濃くなるので富裕層が生活する。一流ホテルも下の方に建てられている。我々が2連泊する5つ星ホテル、カミノ・リアル・スイーツもそこにあった。

3日目は世界遺産ティワナク遺跡見学。4日目、国内線でウユニに飛び、四駆のジープで世界最大のウユニ塩湖をめざす。

ウユニの街には、製塩工場があり、お土産屋さんがずらりと並ぶ。工場といっても家内工業のちいさなものだが、コーナーにならんでいるウユニ塩湖の塩を購入。

今宵の宿、壁や床などが塩で作られた塩のホテルで長靴を借り、ジープはウユニ塩湖に突入する。けっこう水があるじゃんと思ったが、実際はくるぶしくらいの水深だった。ウユニ塩湖は乾期には水が干上がって鏡にはならない。12月～4月の雨季、水が貼って鏡となる。

ジープ4台、ウユニ塩湖のど真ん中で駐車、長靴を履いて湖に入ると、くるぶしくらいの水深であることが判明した。底は一面硬い塩の岩盤で、そこに鏡の秘密があるのかも知れない。

塩湖のど真ん中にテーブルを出し、椅子を並べて昼食会場の出来上がり。なにはともあれ、憧れのウユニ塩湖体験が始まった。翌日もウユニ塩湖の散策。散策といっても、ポイントまでジープで走る。昨日に比し、湖面は泡立ちが少なく、本当に鏡のよう。感動というか、不思議な気分。乾期には塩の大地、雨季には塩の湖、こんな大自然をだれが作り出したのか。自然の偉大さと、世界の大きさを見せつけてくれたウユニ塩湖であった。

この十年、海外で日本の若者を見るのが珍しかったのに、ウユニでは大勢いた。テレビの影響に違いない。びっくり…。